

悠久の京を訪ねて

Vol.8



京は古より人々が集い、その気候・風土を織り交ぜ、日本の中心地として生活が営まれてきました。

それは京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により縄文、弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのかを知ることが、これからの生活を考える上でも重要な事だと言えます。

出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

万葉歌木簡のみつかった寺：馬場南遺跡

京都府木津川市



万葉歌木簡みつかる!!

「あおによし ならの都の八重桜…」
平城宮の大極殿跡に立つと、この歌が
さっと思い浮かびます。この歌が詠わ
れた万葉集の原本は現存するものが
なく、詠われた当時、どのような席・歌
会で詠まれ、それがどのように編集・収
録されて、今に伝わっているのか、実
はわかっていません。紀貫之が最終編
集したものとも言われており、現在残
っているその写本は平安時代後期のも
のようで、万葉集のなりたちは謎に
つまれています。

この万葉集の歌で、読み人知らず
卷十 二二〇五番の「秋萩の 下葉もみ
ちぬ あらたまの 月の経ゆけば 風をい
たみかも」の上の句十一字が読める木
簡が、木津川市馬場南遺跡からみつか
りました。



万葉歌木簡

歌木簡が書かれた風景

馬場南遺跡は奈良時代、天平文化華やかなりし
頃の遺跡で、小規模な堂・塔と拝殿があり、その前面
には平坦な広場と曲折する川跡がみつかりました。川跡か
らは夜間に火を灯して法要したかのような灯明皿が4,000
枚以上出土しています。

その他の遺物には「神雄寺」と墨書された土器、さざ波や
岩を表現した彩釉山水陶器、楽器である陶製の鼓が出土し
ており、貴族が集う法要のなかでの歌会の様子が想像でき
ます。



馬場南遺跡